



## 地図ではどうして上が北なの

### 上が北という約束になっているから

地図は、だれが見ても分かるように、作る人とそれを使う人との間に、いろいろな約束がもうけられています。そのもっとも基本的なことが、方位と縮尺・地図記号です。

東・西・南・北などの向きを方位といいます。方位は、東・西・南・北を基準として、東と南の中間方向が南東、北と東の中間方向が北東というように決められています。

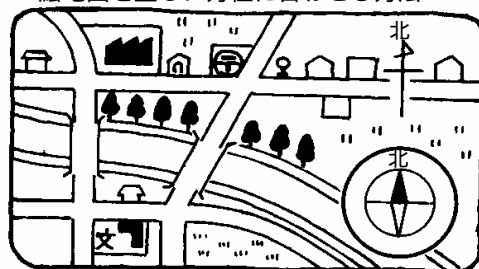
地図では、特にことわりがないかぎり、北が上になっています。ですから、下が南で、右が東、左が西になります。つまり北が上ということは、作る人とそれを使う人の間の、いろいろな約束の中の一つなのです。

このように北が上になったのは、近代的な測量法ができ上がったからのことです。それ以前は、南が上であったり、西が上であったり、ばらばらでした。

### 北を上にはできない場合

地図を作るとき、いろいろなついでで、北を上にはできない場合もあります。そのようなときには、地図の上で、どちらが北かを示す記号をつけることになっています。この記号のことを、方位記号といいます。（監修・保岡 孝之）

絵地図を正しい方位に合わせる方法



絵地図の方位記号を、方位磁石の針のさす方位に合わせる。

